

# 研究推進校事業報告書

## <取組と成果のポイント>

- ・ 導入や終末の工夫を取り入れるとともに、子供たちの問題意識を大切にした発問から授業を展開することができた。また、多面的・多角的な視点から活発な話し合い活動が行われるようにグループトーク（トリオ学習）を取り入れ、年間35時間の道徳科の時間を大切にするとともに、「子供とともに作る道徳授業」に全職員が共通理解のもと取り組むことができた。
- ・ 道徳科と各教科、学校行事の関連を大切に、別葉や年間指導計画・指導計画の細案等を効果的に活用した授業を展開することができた。
- ・ 学校、学級だよりや道徳ノートを通して家庭との連携を大切に道徳教育の推進を図った。道徳の授業で学んだことを各家庭で話題にしたり、実生活の中で生かしたりできる児童が増えてきた。

## 1 研究推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
豊橋市立羽根井小学校	豊橋市羽根井本町131番地	0532(31)0375	454人	

## 2 研究課題

- (1) 「考え、議論する道徳」へと質的に転換を図る授業のさらなる研究
- (2) 道徳教育の全体計画、別葉、年間指導計画を踏まえた道徳教育の進め方の研究
- (3) 家庭と連携した道徳教育の推進
- (4) 道徳の時間における評価の工夫・改善

## 3 研究主題とその設定理由

### (1) 研究主題

『特別の教科 道徳』を要とした道徳教育の充実  
ーカリキュラム・マネジメントを生かした効果的かつ多様な指導方法と評価の工夫・改善ー

### (2) 主題設定の理由

本校では他校に先駆けて6年程前から「羽根井スタイル」を常に意識した道徳の授業実践を行ってきた。そのスタイルとは、教材の場面ごとに問いかけ、主人公の思いをその都度考えていく授業ではなく、子供が気になることや考えたいことを明確にもち、思いをもって議論することで、一人一人が自分の大切にしたい価値観などを見つけていくことをねらいとしている。最初に学習テーマを置き、授業の山場である中心発問を中核として学習テーマについて掘り下げていく授業である。

平成32年度からの新学習指導要領の本格実施を受けて、小学校では、本年度より「特別の教科道徳」が実施されている。そして、道徳科の授業における問題解決的な学習を取り入れたり、指導方法の工夫を図ったりすることなどを通して、従来の道徳授業から「考え、議論する道徳」へと質的転換を図ることが求められている。

平成25年度より本校では、子供が日常の体験を思い起こすことができる教材を選定し、心情軸を用いた板書や自由発言などの関わり合いの工夫、役割演技など展開のバリエーションを広げた授業に取り組んできた。また、子供とつくる道徳授業を意識し、感想交流から子どもたちの問題意識をとらえ、本時のねらいに迫る発問をテーマに設定した授業の実践に取り組んできた。そこで、子

供の思いを大切にしながらさらなる授業改善を図るとともに、道徳教育にかかわるカリキュラムを効果的に活用し、道徳科と他教科との関連を大切にしながら指導方法を探りながら、家庭や地域との連携を図り、子供の心に響く道徳科の授業の在り方や評価の工夫についての研究を深めるために本主題を設定した。

#### 4 研究の概要及び特色

##### (1) 研究の概要

###### ① 「子供とともにつくる道徳授業」の実践

用意された発問による授業や、教師対子どもの一問一答式の各駅停車型の授業ではなく、子供たちのこだわりや問題意識を大切にしながら、指導方法の工夫を取り入れた冒険運転型の授業展開を実践する。

###### ② 道徳のカリキュラムの作成及び効果的な活用方法の研究

道徳全体計画の別業、道徳科の教科書を活用した年間指導計画、指導計画の細案等のカリキュラムを作成し、それを生かした授業案の作成や指導体制の共通理解を図る。

###### ③ 家庭や地域と連携した道徳教育の推進

道徳科の授業の様子を学校・学級だよりや道徳ノートを通して保護者と共有することで、授業で学んだことを家庭で話題にし、子供たちの生活の指針となる道徳的価値観や道徳的判断力を育む。

###### ④ 道徳科の評価と指導方法の改善

道徳ノートをサポートフォリオとして生かし、評価の手がかりとする。また、長いスパンで子供たちの成長の様子をとらえ、評価に生かしていく。また、職員同士が授業を参観し合ったり、研究授業を公開したりすることで、教材や指導方法の共有化を図り、よりよい道徳授業の実践を目指す。

##### (2) 研究の仮説と手だて

###### 【仮説1】

「子供とともにつくる道徳授業」を要とした授業展開をすれば、自分の考えをもち、他の考えを認め合いながら、豊かな心を育むことができるであろう。

###### 【仮説1】の手だて

###### ① 導入や終末の工夫

ねらいとする価値に関わる体験などを自由に発表させることで、生活経験と本時の学びの関連性をもたせる。教師による読み聞かせだけでなく、紙芝居のように提示したり、シルエット絵を提示したりするなど、効果的な教材の提示を工夫する。また、子供の問題意識や疑問を生み、関心をもって取り組ませるために、写真提示や映像などを活用した導入や終末の工夫を図る。

###### ② 子供とともにつくるテーマ発問

子供たちが体験を想起して発表し、自分の思いを語りやすくなるようなテーマ発問を考える。子供とともにつくる道徳授業を意識し、教材提示の後に感想交流を取り入れ、その中から、中心発問を本時のねらいに迫ることのできるテーマ発問として設定する。

###### ③ 話し合いの工夫

子供の意見を類型化した構造的な板書など、子供たちが思考しやすく、話し合いの深まりが期待できるような板書を工夫する。心情軸やシルエット絵を使った板書にも取り組む。また、ペアトークやグループトークを効果的に取り入れて話し合いを支援する。

## 【仮説2】

道徳カリキュラムを生かした他教科と横断的に関わる教材の選定や、家庭との連携を大切にしながら道徳教育を推進すれば、子供たちの道徳的価値観や判断力を高めることができるであろう。

## 【仮説2】の手だて

### ① 各教科・行事等との関連を明確にした道徳教育のカリキュラムの作成及び活用

学年の発達段階に応じた主題を年間にわたって適切に配列した教科書等の教材を選定し、それをもとにした道徳科の年間指導計画やその細案を作成することで、道徳科の授業を円滑に行うことができるようにする。新たに使用する教科書について、ただ「教科書を教える」のではなく道徳科の目標及び特質に応じた補助教材や地域に根ざした地域教材を併せて使用するなど、教科書の効果的な活用方法をさぐる。

### ② 家庭と連携した道徳教育の推進

学校だより「こころ通信」や学級だよりの発行を通し、道徳教材について家庭での話合いの機会をもたせる工夫をする。道徳の公開授業の実施後、保護者の感想を募るなど、保護者の道徳教育への意識高揚を図る。また、道徳ノートを通して子供たちの学びの様子を発信し、保護者の感想を集約して指導への活用を図る。

### ④ 道徳の時間における評価の工夫・改善

道徳ふり返りカードを使い、毎時間子ども自身による自己評価を行う。そして評価内容を累積して支援に役立てる。授業の中でノートに書く場面を精選し、話合いの時間を確保するとともに、子供が書いた内容を肯定的に受け止め、朱書きの仕方を工夫する。内容項目ごとだけではなく、道徳的観点からも子供の姿をとらえた、総合的な評価の仕方を考える。

## (3) 研究課題に関わる取り組み

### ① 「子供とともにつくる道徳授業」の実践

#### ア 視覚支援の導入の工夫を取り入れた、1年『となりのジェニーちゃん』の実践

本教材は教科書に漫画形式で掲載されている。登場人物の表情や言葉の吹き出しなど、児童は挿絵を見ることでそれぞれの心情や場面の様子を捉えることができた。

導入では自分たちと外国の子供たちの違いを考えさせるために、3人の外国人の子供の写真を見せた。髪の色や肌の色が違うブラジルの子、ネパールの子に加え、見た目はほとんど日本人と変わらない韓国の子の写真を見せたことで、「見た目ではわからないけれど、違うところがひとつあるよ」という問いかけから「言葉が違う」というテーマにつなげ、授業を展開することができた。

展開後段では、「もしこのクラスに外国の子が来たら」と発問し、話し合った。話合いでは、

自分の知っていることを相手に伝えたいという気持ちが多く出たので、「自分が知らない外国のことはどうかな」と切り返しの発問をした。すると「知りたい」と多くの子供たちが答え、外国の遊びや言葉を知りたいという気持ちを引き出すことができた。

1年生の子供たちにはまだ他国の人々や文化に関わる機会は少なく、実感のわかない子もいるため、終末に教師が実際に外国の人たちと笑顔で写っている写真を見せた。(資料1) 子供たちの「外国の子とも仲よくなりたい」「外国のことも教えてほしい」という言葉とつなげて自らの体験を語ることで、外国の人と関わってみたいという気持ちを高めることができた。

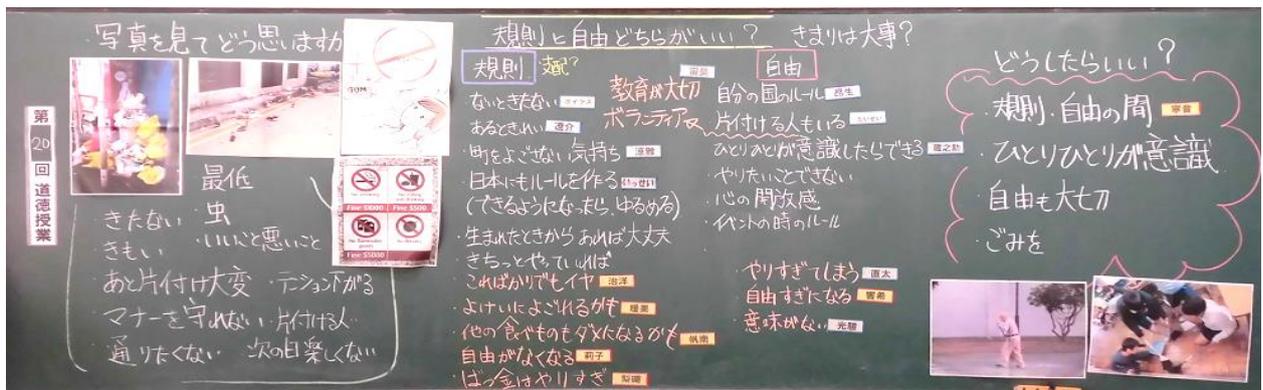


【資料1 導入と終末に視覚支援を取り入れた授業の様子】



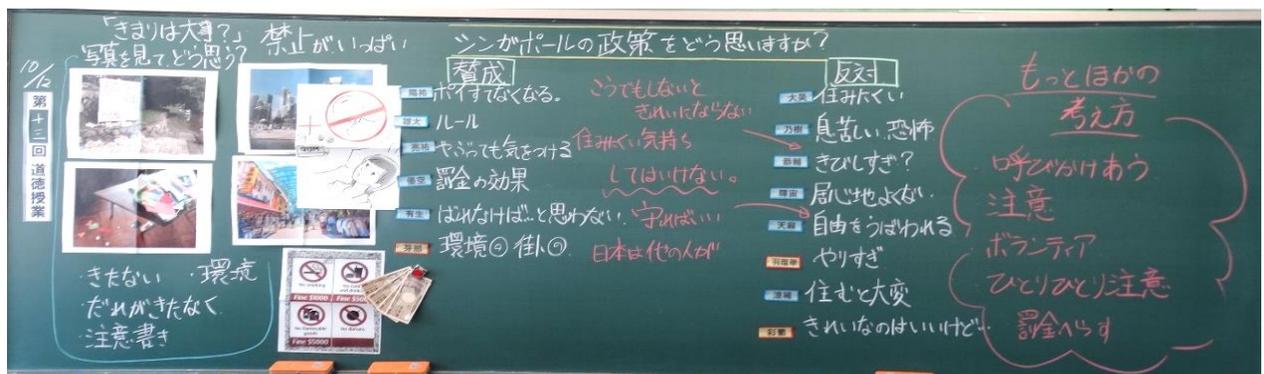
## ウ 感想交流からの展開と板書の工夫を取り入れた、5年『禁止がいっぱい』の実践

導入では、ハロウィンイベント後の荒らされた町の写真を提示した。ニュースでこの出来事を見て、知っている子が多く、問題意識をもって授業に臨むことができた。また、教材提示の中で、禁止マークや挿絵を掲示することが視覚的な支援となった。終末では、地域の公園を掃除する方の動画を流したり、クラスで自主的に掃除してくれている子の写真を掲示したりすることで、自分たちの地域や学校は、自分たちの手できれいにしていこうという気持ちを高めることができた。教材を範読した後、子供の問題意識やこだわりがどこにあるのかをつかむために、感想交流を取り入れた。子供たちからは、「日本とシンガポールのやり方はどちらがよいのか」「自由だときれいにならないのか」などの意見が出された。本時の中心発問ではA案の「規則と自由どちらがいいか」のテーマ発問を設定し、子供の問題意識やこだわりを生かした授業展開をすることができた。(資料5)



【資料5 A案「規則と自由、どちらを大切にしたいですか」の板書】

他のクラスでは、シンガポールの政策や罰則についての賛否の意見がそれぞれ多く上がったためB案の「シンガポールの政策をどう思うか」を中心発問に設定し、授業を展開した。同じ教材でも、子供のこだわりや問題意識の違いが生まれることから、感想交流から中心発問へとつなげることで、子供とともにつくる道徳授業を展開することができた。(資料6)



【資料6 B案「シンガポールの政策をどう思いますか」の板書】

話し合いの中で出された考えの違いを明確にするために、「規則」と「自由」の立場に分けて板書するとともに、規則と自由に対する反対意見については、チョークで色分けして板書した。類型化した板書が、発言を続けていく中で、自由と規則の両方のよさを理解する支援となった。

## エ 「トリオ学習」を取り入れた、6年「ブランコ乗りとピエロ」の実践

トリオ学習は、教師対子どもの一問一答式の授業ではなく、クラス全員が参加し、自分の意見を語る場面をつくることをねらいとした話し合いの工夫である。グループのメンバーを3人(トリオ)にしてグループトークを行う。メンバー構成やトリオ学習を取り入れるタイミング(どの発問で話し合うのか)を工夫するとともに、話し合いの目的や視点を明確にすることが大

切である。一人一人が自分の考えをもち、友達の考えと比べながら話し合うことで、道徳的価値への理解や自分の考えを深めることができ、全体での話し合いが充実する支援となる。(資料7)



【資料7 トリオ学習の様子】

本教材「ブランコ乗りとピエロ」は文章が長く、一度読んだだけでは内容の理解が不十分になる可能性が高い。そのため、本時の前に子供たちは教材を読み、感想を書く活動を取り入れた。そのことによって、子供たちは、教材の内容をあらかじめ理解し、また教師は事前に子供たちの問題意識をつかんだ上で授業を行うことができた。(資料8)

授業を通して、子供たちの価値観の変化を捉えることができるように導入と収束の発問を「よい人間関係をつくるにはどうすればよいか」と同じ内容にした。導入では、「人に嫌われない」ことを意識していた子供たちが、授業での話し合いを通して違う考えをもつ人に対して、互いを認め、理解し合うことを意識するようになった。

テーマ: 何かめい「ブランコ乗りとピエロ」

ピエロはやさしいな。と思、た。サムをつか木果をた姿を貝、今までの自分とみつけなめて、すこいと思、下村と、どうしてそんなに速く、気持ち変えることができたのか、少し不思議だ、た。

私、今日の授業で、よい人間関係をつくるには、相手のことを考えるだけじゃなくて、相手のことをみとめて、さらに、自分のことを見つめ直すことが大切だ、と思いました。このことを学校生活で身にかけていきたいと思います。

よい人間関係をつくるには、相手を認めるだけでなく、自分自身を見つめ直すことの大切さに気付いた。ぜひ、生活の中で実行してみよう!!

【資料8 道徳ノート：事前の感想とふり返り】

② 各教科・行事等との関連を明確にし、別業を効果的に活用した授業  
ア 別業の作成

		平成30年度 羽根井小学校道徳全体計画(別業) 2年																
内容項目		国語	算数	生活	図画工作	音楽	体育	特別活動	学校行事									
A 主として自分自身に関する事	善悪の判断							礼儀正しくしよう					11					
	正直、誠実						おに遊び ルールを守って楽しく遊ぼう											
	節度、節制	ひょう・グラフと時計 時計を読めるようになって、生活に活かす					水遊び 安全に楽しく水遊びをしよう						7 8	学校保健委員会				
	個性の伸長	朝霧大会 友達の作品を鑑賞し、自他の作品のよい面を見つけよう	おもちや大会をひらこう 自分が作って遊んでみたいおもちやを作る	カラフルフィッシュ 自分で考えて工夫した作品を作る	せんりつおそび 自分が考えた旋律を演奏したり歌ったりする	既習リズム遊び 友達の表現を見ながら、楽しく体を動かそう								伊勢丹委員会 持久走大会				
B 主として人との関わりに関すること	希望と勇氣、努力と強い意志	朝霧大会 思い通りの字を書こうと練習に励む	かけ算(1)(2) 九九を覚える	おもちや大会をひらこう 作ったおもちやをもっとよくしようと決める			朝霧大会を使っての運動遊び できそうな技の練習に取り組み							7 2	運動会 持久走大会			
	親切、思いやり	かさこじぞう いひさまとあそぶための優しい気持ちを取り戻そう	餅みとる舞臺 一年生とあそぶ餅のおもちやを、おもちやの飾りを作る	朝霧大会の交流 朝霧大会のお年寄りに優しく接する			いろいろな運動遊び 友達と器具を譲り合って使う											
	感謝	「ありがとう」をつたえよう 感謝の気持ちをつたえる		みんな大きくなったよ 自分や友達の成長を誇り、感謝の気持ちをもつ											3	遠征式 旗立のつとめ		
	礼儀			朝霧大会の交流 朝霧大会のお年寄りに敬語を使って話す			ボールけりゲーム 試合前後の挨拶をきちんとする									3	旗立式	
C 主として集団や社会との関わりに関すること	友情、信頼	お手紙 がまくとくえんくんの思いに相手を書いて気持ちを伝える		おもちや大会をひらこう 友達と協力して楽しく遊ぶ		かくれんぼ 友達と協力して遊ぶ	友づくり運動 友達と一緒に体を動かす								12	伊勢丹委員会 持久走大会		
	規則の尊重			おもちや大会をひらこう 話し合って決めたおもちや大会のルールを実践する			ボール投げゲーム ルールを守り、楽しく中あてゲームをする											
	公正、公平、社会正義			おもちや大会をひらこう どの製造にも同じように楽しませる														
	勤労、公共の精神			レッツゴー！前たんけん 公共の場所を正しく使う												5	そうじのしかた	
D 主として生命や自然の関わり、感動、畏敬の念	家族愛、家庭生活の充実	名刺を渡してようだい いひさまとあそぶための約束をグループで話し合う		みんな大きくなったよ 自分や友達の成長を誇り、感謝の気持ちをもつ												12 3	身体あそびのし方を考えよう 身体あそびのし方を考えよう	
	よりよい学校生活、集団生活の充実	おそびのゆくをくしおひらこう なかよく遊ぶための約束をグループで話し合う	おそびのゆくをくしおひらこう お楽しみ会についての順序表を作る	おもちや大会をひらこう おもちや大会のルールを決める												4 3	伊勢丹委員会 旗立のつとめ だてわりばんこ	
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	おそびのゆくをくしおひらこう お楽しみ会についての順序表を作る		レッツゴー！前たんけん 校区を探索して地域のことを知る			わらべうた はるがきた メッセー いろいろな国の言葉を見えよう										1	毎日のあそびをしよう
	国際理解、国際親善			レッツゴー！前たんけん 交通ルールを守って探検する														
D 主として生命や自然の関わり、感動、畏敬の念	生命の尊さ	ビーバーの穴工事 てきにおそびない巣を作るための工夫を読み取る		レッツゴー！前たんけん 交通ルールを守って探検する													4 5 6	ぼく・わたしのたんじょう ずきずきしいしんがく 正しいおそびをしよう
	自然愛護	たんぽぽ かんたんつたことききき 日本画のしらべ		たんぽぽのひら 夏野菜、秋野菜、冬野菜を育てて収穫する														
	感動、畏敬の念			日本画のしらべ 四季折々の自然の美しさや調を感じ取る														

【資料9 道徳全体計画別業(2年生)】

本校では、縦軸に内容項目、横軸に各教科と単元等を示した、道徳教育の全体計画の別葉を作成した。(資料9)各教科をどのように関連付けて道徳教育を行うか考え、さらに学校の実態や創意工夫を取り入れて、道徳教育を進めていくことが必要である。各学年の別葉は、取り組んだものや、道徳的価値への理解として成果が得られたものについてチェックをしたり、内容を書き加えたりと加除修正しながら活用している。

### イ 道徳の授業に生かす年間指導計画や指導細案の作成と活用

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、子供の発達段階に即して計画的・発展的に行われることを目的としたものである。



## 羽根井小学校 道徳年間指導計画(6年)



月	回	教材名	主題名	ねらい	内容項目	出典
4	1	自分は自分	自分らしくがやく	自分自身で自分のよさを見つけていくを通して、短所を改善していこうとするとともに、長所をさらに伸ばしていこうとする意欲を高める。	A-(4)個性の伸長	学研
			①3つの詩を読んでみよう。 ②あなたの一番好きな詩はどれですか。 ③自分に当てはめて、自分のよいところ、自分らしさとは何か考えてみよう。			
	2	食べ残されたえびになみだ	ぜいたくへのいましめ	物を大切にし、節度を守り、節制に心がける態度を養う。	A-(3)節度、節制	学研
5	3	こだわりのイナバウアー	感謝	自分の存在は、多くの人々の支え合いや助け合いによって成り立っていることを理解し、尊敬と感謝の念で応えていこうとする態度を養う。	B-(8)感謝	学研
			①ピョンチャンオリンピックでどんな競技や人に興味をもちましたか。 ②羽生選手が得点にならないイナバウアーにこだわったのはなぜだろう。 ③当たり前だと思っている日常生活の中で、どのような支えや見守りがあるでしょう。			
	4	ホワイトハウスにできた柔道場	国を超えた文化交流	我が国の伝統や文化に対する誇りを胸に、国際理解・親善に努めていこうとする態度を育てる。	C-(18)国際理解、国際親善	学研
6	5	チョモランマ清掃登山隊	自然を大切に	野口さんの清掃活動への思いを考えることで自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすることへの意欲を高める。	D-(20)自然愛護	学研
			①チョモランマに捨てられたごみの写真を見て、どう感じましたか。 ②清掃登山を続ける野口さんを支えているのは、どんな思いだろう。 ③自然と共存していくためには、どんなことが大切でしょう。			
	6	移動教室の夜	自由と規律ある行動	自由を楽しむには、集団としての規則やルールを守ることが大切であることを知り、規律ある行動を取ろうとする態度を育てる。	A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任	学研
7	7	どんな心が見えますか	決まりを守る意味	法や決まりがなぜあるのかを理解し、自分の権利と義務、周りの人の権利と義務の双方のあり方を考えることにより、積極的に自らの義務を果たそうとする心情を育てる。	C-(12)規則の尊重	学研
			①写真やポスターを見て、どんなことを思いましたか。 ②それぞれの写真やポスターから人々のどんな心が見えますか。 ③決まりがある意味を考えましょう。			
	8	ある日、町の中で	相手の気持ちになつて	相手の立場に立って、自分にできることは何か考え、誰に対しても親切な行いをしようとする心情を育てる。	B-(7)親切、思いやり	学研
8	9	命を見つめて	今、生きているということ	生命には終わりがあり、限りある生命だからこそ精一杯生きようとする態度を育てる。	D-(19)生命の尊さ	学研
			①幸せを感じる時はどんなときですか。 ②瞳さんが伝えたかったことは、なんだろう。 ③瞳さんのメッセージから、これからの自分の生き方を考えよう。			
	10	古きよき心	日本人らしさ	日本に受け継がれている伝統や文化の素晴らしさに気付き、日本人としての誇りをもってそれらを尊重し更に発展させていこうとする態度を育てる。	C-(17)伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	学研
			①日本のよいところはどんなところだと思いますか。 ②明治時代、外国人の目に日本人の礼儀や立ち居ふるまいがどのように映っていたでしょう。 ③これからも大切に受け継いでいきたい日本人の「古きよき心」には、どんなものがあるか考えてみましょう。			

【資料10 道徳年間指導計画(6年生)】

指導細案には、各教科との関連や指導過程や指導方法を明記している。板書や教具を共有することで、学校・学年全体で共通理解のもと、道徳の授業を進めていくことをねらいとしている。

第4学年 第5回 道徳授業

主題名	深く思い合う心	内容項目	B 友情、信頼
教材名	泣いた赤おに	出典	学研
ねらい	友情について多面的・多角的に考えることで、相手のことを思って行動する大切さに気づき、友達と助け合っていこうとする気持ちを高める。		
他教科との関連	国語「みんなで新聞を作ろう」(7月)		
道徳授業に生かす7つの工夫	<p>○心に残った場面を、赤おに・青おにの立場で役割演技をして感想交流を行う(体験活動)</p> <p>○感想交流から中心発問につなげられるように、「二人の友情をどんなところに感じるか」「ずっと友達でいるために、二人はどうすればよかったのか」と2パターンを中心発問を用意し、赤おに・青おにの友情を多面的・多角的にとらえられるようにする。(発問)</p>		
※教師支援	展開	◎ 評価(方法)	
<p>※ 自分にとって友達とはどんな存在であるかを、多面的・多角的にとらえられるように、自由発言で多くの意見を引き出す。</p> <p>※ 自分の心に残った場面を、役割演技で示す感想交流を取り入れ、中心発問につなげる。</p> <p>※ 赤おに、青おにの友情を多面的・多角的に捉えられるように、自分なりの友情の価値観をもって話し合うようにする。</p>	<p>1. 今日の授業の価値についての導入をおこなう。</p> <p>○みんなにとって友達とはどんな存在ですか</p> <p>2. 教材「泣いた赤おに」を読んで話し合う。</p> <p>○この話で心に残ったことはどんなことだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達なのにどうしてなぐったのか</li> <li>・赤おにはどうして泣いたのか</li> <li>・赤おにと青おには本当の友達って言えるのかな</li> </ul> <p>○赤おにと青おにの二人の友情をどんなところに感じるか</p> <p>○ずっと友達でいるために、二人はどうすればよかったのか</p> <p>○本当の友達でいるために大切にしたいことはどんなことだろう</p>	<p>◎ 赤おにと青おにの友情について多面的・多角的にとらえ、自分なりの考えをもち、友情への価値観について考えることができる。(役割演技・話し合いの様子)</p> <p>◎ 友達として大切にしたいことを考え、よりよい友情を築いていこうとする気持ちを高めることができる。(発言・ハッピーノート)</p>	
<b>&lt;板書計画&gt;</b>			
<p>The board plan is a complex diagram on a chalkboard background. At the top, it asks '二人の友情をどんなところに感じますか?' (How do you feel about their friendship?). It features a blue bird (Akao-oni) and a red bird (Aoboi-oni) with arrows between them labeled '友情' (friendship). On the left, a blue circle lists '友達とは、助け合う、仲良し、けんかもする、大切な、いいこと、する'. In the center, there are notes about '自分ほどがなでいい' and '赤おにのために、勇者になつた'. On the right, a red circle lists '本当の友達でいるために、きちんと会って、相手に気持ちを伝える、分かち合う、相手の気持ちを大切に'. Other notes include 'あわてていた、青おにに、早くにげたまえ、かみ板を見て泣いた、でこかに、行たらさみしい、悲しいなみた、仕方がなかつた、親友、本当はなぐりたくない、悲しい'.</p>			
その他(補足資料など)	赤おに・青おにのお面、シルエット絵		

【資料 11 道徳指導計画の細案(4年生)】

ウ 別葉を活用し、生活科との関連を意識した、2年「おばあさんができたよ」の実践

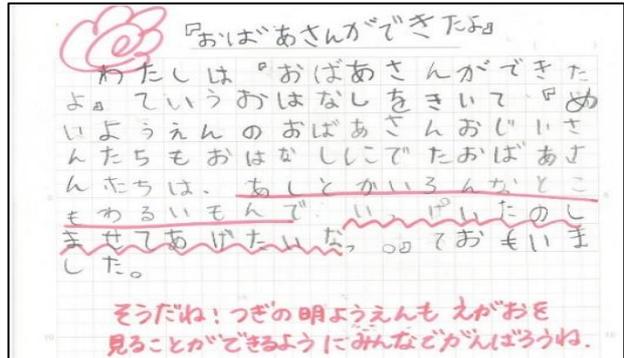
2年生は生活科で学校の近くにある老人保健施設のお年寄りと交流を行っている。本時は、本教材と生活科の学習「老人保健施設の方との交流会」と関連させて授業案を構想した。交流する前はお年寄りと接することに対して不安を感じる子供も多く、どう接したらいいのかわからない子もいた。しかし、自己紹介やレクリエーションなどの活動を通して、子供たちもお年寄りの笑顔を見て、喜ぶ姿を見せるようになってきた。本時の道徳授業では、「どうしてひ

ろみとおばあちゃんの二人は笑顔になったのか」を中心発問に設定し、今後老人保健施設で交流する際に、相手を思いやり、相手のことを考え、行動できるようになることを願って本実践に取り組んだ。

中心発問の後、老人保健施設での交流について自分たちがおじいさん、おばあさんにこれからしてあげたいことについて考えた。グループトークの時間を設定することで、全員がグループの中で自分の考えを発言することができた。また、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりすることで、多様な考えを学び合い、相手のことを思って行動する大切さについて思いを深めることができた。



【資料 12 交流の様子】



【資料 13 道徳ノート：A子のふり返り】

展開後段では、お年寄りの方が喜んでる様子を思い出すために、老人保健施設での交流の様子の写真を提示した。(資料 12)「おばあちゃんたちが元気になるように、肩もみしてあげたい」「楽しいおしゃべりをしたいな」など、主人公のひろみと同じように、自分たちも老人保健施設のお年寄りを思い出しながら、優しく接する方法を話し合うことができた。授業を通して、お年寄りの気持ちを考えた親切な行動をすることの大切さを感じながら、お年寄りの喜びを自分の喜びとして受け入れようという気持ちを高めることができた。ふり返りでは、多くの子が次の老人保健施設との交流で相手も自分も笑顔になるようにしたいという思いをもつことができた。

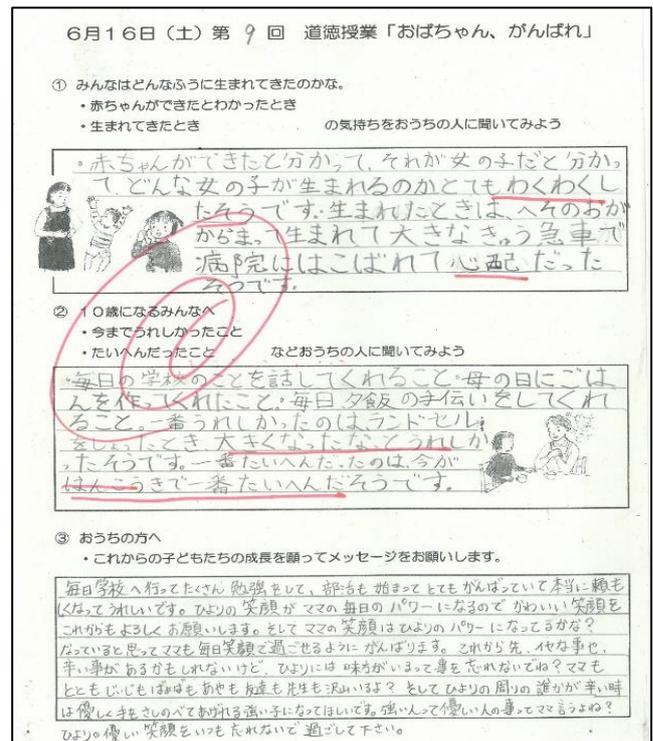
### ③ 家庭と連携した道徳教育の推進

#### ア 保護者とともに考える、命の授業

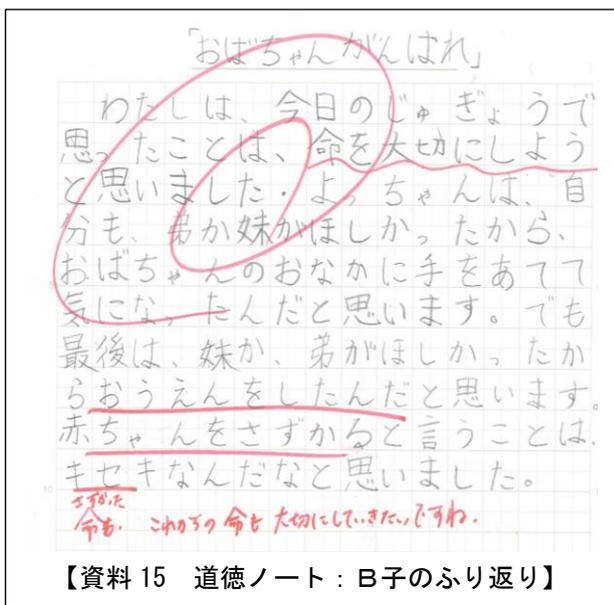
##### 4年『おばちゃんがんばれ』の実践

4年生では、6月の学校公開日に行った道徳「命の授業」において、事前に道徳の家庭学習を取り入れた。子供たちは、保護者と一緒に教科書の教材を読み、命がお腹に宿った時や生まれた時の保護者の気持ちを聞いてくるという課題に取り組み、道徳教材について家庭で話し合いの機会をもたせた授業を実践した。(資料 14)

自分と同じ一人っ子のいとこに弟か妹が生まれることを知り、悔しさからおばちゃんの赤ちゃんの誕生を祝福できない主人公。主人公がお母さんに自分がお腹の中にいるときの話を聞くことで、おばちゃん



【資料 14 ワークシート：家庭学習の取り組み】



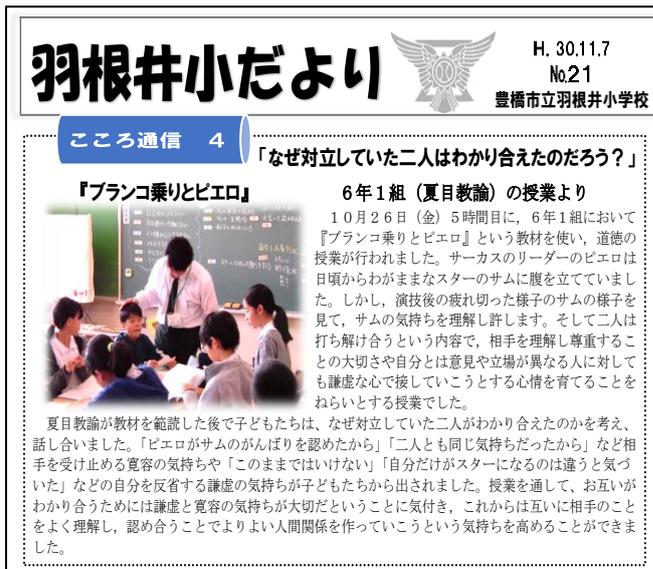
【資料 15 道徳ノート：B子のふり返り】

への思いが少しずつ変化していく。本学級の子供たちも自分の誕生時の保護者の思いを知ること、主人公の気持ちに共感しながら、1時間を通して、『命』について考えることができた。話し合いでは「命が誕生するのは奇跡」「生んでくれたことに感謝したい」「10才のわたしを振り返って、これからのわたしもしっかり生きていきたいと思った」などの意見が出され、命の大切さを改めて見つめて考えることができた。(資料 15)

### イ 学校だより「こころ通信」の発行

各学年の道徳授業への取り組みの様子を、学校だより「こころ通信」として発信し、子供たちの話し合いの様子や教材の内容やねらいなどを紹介した。(資料 16)

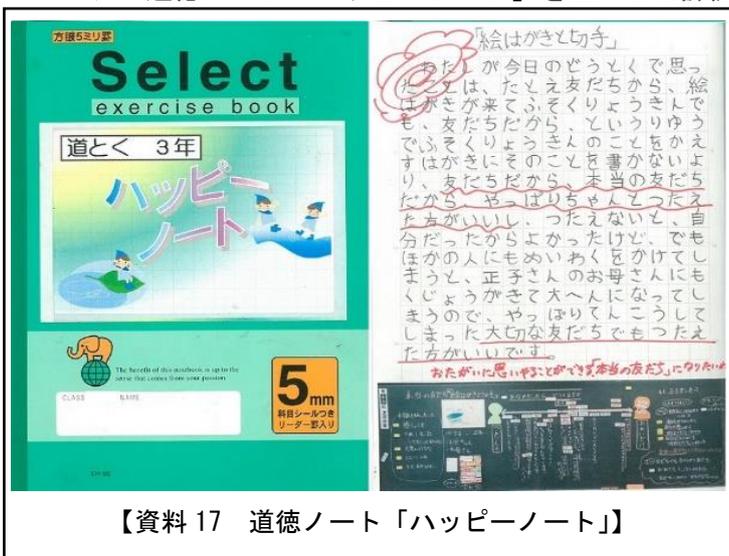
全学級の授業の様子を発信することで、保護者に本校の道徳教育への取り組みを意識してもらうことができた。



【資料 16 学校だより「こころ通信」】

### ③ 道徳の評価と指導方法の改善

#### ア 道徳ノート「ハッピーノート」を生かした評価



【資料 17 道徳ノート「ハッピーノート」】

本校では、25年度より道徳ノート(「ハッピーノート」)を使用している。低学年は1時間に1回、高学年は1時間に2回程度記述し、話し合いに活用したり、授業のふり返りを行ったりしている。このノートによって子供たちは、自らの学びをふり返るとともに学びの蓄積を行っている。

27年度からは自己評価と評価所見の作成に取り組んできた。自己評価の内容は各学年で内容を変更したり、後半は項目を増やしたりして内容に変化をもたせた。このノートの記述を「ポートフォリオ」として評価に活用している。また、朱書きの支援も、児童の

自己肯定感を高めるのに有効であり、書き方の研修も行っている。(資料 17)

11月に、道徳「ハッピーノート」を持ち帰らせ、子供たちの学びの様子を家庭に伝えた。子どもたちのふり返りや保護者からの感想を今後の指導改善に生かすとともに、さらなる道徳

授業の充実を図りたいと考えている。(資料 18・19)

道徳 ふり返りカード(6年)

◎よくできた ○できた △できなかった

回	月日	学習テーマ	1 筆手や発言が できた	2 テーマについて 考えが深まった	3 友達の考えに 関わる事ができた
1	4/13	もっと自分らしく	◎	◎	△
2	4/19	ものを大切に	◎	◎	○
3	4/26	感謝	◎	◎	○
4	5/10	国際理解	◎	◎	△
5	5/17	自然を守る	◎	◎	△
6	5/24	自由と責任ある行動	◎	◎	△
7	5/31	きまりを守り意味	◎	◎	△
8	6/7	親切	◎	◎	◎
9	6/16	ものを大切に	◎	◎	○
10	6/21	古きよき心	◎	◎	○
11	6/28	相互理解	◎	◎	◎
12	7/5	国際理解	◎	◎	○
13	7/20	友情	◎	◎	◎
14	9/6	自由と平等	◎	◎	○
15	9/13	目標に向かって	◎	◎	○
16	9/20	家族愛	◎	◎	○
17	9/27	日本の宝	◎	◎	○
18	10/4	正直	◎	◎	◎
19	10/11	自然を大切に	◎	◎	◎

10月までに私は、自分のこと、自然のこと、外国とのこと、いのちのことなどたくさんのことを学びました。その中でも「命を見つめて」というさわりひとみさんのお話にとっても感動しました。

(6年女子)

1つの物事に対して、いろいろな考え方があることを知り、理解し、時には自分の考え方を変える。そのプロセスがよくわかりました。自分の心の中を見つめ、具体的に言葉や文章で表現することはとても良いことです。半年間続けて振り返りを読み比べると成長を感じます。これからも心を豊かにすることを目指してください。

(母より)

【資料 19 児童のふり返りと  
寄せられた保護者の感想】

【資料 18 道徳ふり返りカード】

記述したノートでのふり返りから、子供たちの思いや考えの変容をとらえ、評価文を作成し、ノートを通して保護者へ子供たちの道徳授業の学びの様子を伝えた。(資料 20)

ふりかえり

今日の授業で喜一郎さんはいろいろなところがすごいなと思いました。喜一郎さんは、来々(今)のことと考えて自動車をつくることにしたし、あきらめなか、たのも必ず成功するという見込みと強い決心があ、たからだと思ひます。先のことと考え強いしと持ち、あきらめな心を持ち、た人になるのは、とてもむずかしいと思ひけれど、少しでも近づけるようにこれからがんば、ていまたいと思ひました。

「マンガ家になろう。～手塚治虫～」  
わたしは、今日のじ、業で、長所について深く考えることができました。手塚治虫さん(先生)は、自分の長所を生かして、自分にぴたりのマンガ家になれたんだと思ひます。治虫先生は、小学生の時に、いじめに負けない、という気持ちでマンガをかきはじめたので、その努力が実、たのかな、と考えました。わたしも、治虫先生のように、自分の長所(得意)を生かして、毎日がんばろう、と思ひました。

たどりつきたい未来。なりたい自分がいるから、  
今を努力して変えていけるものです。  
Never give up!!

自分の好きなこと、得意なこと、  
長所を意識していることが大事だね。

偉人についての授業を通して、自分の長所は何かを考え、強い意志をもって努力し続けようとする思いを高めました。友達の意見を聞くことで考えを深め、目標を実現するために自分ができることを考え、具体的な行動や目標を発表しました。

【資料 20 昨年度に出した道徳の評価文】

## イ 指導方法の改善と道徳授業コーディネート

本校の教諭が、同じ指導体制や共通理解を図ることを目的とし、研究主任による模擬授業や、模範授業の公開、協議会を行い、本校1年目の教諭は必ず道徳の研究授業に取り組んでいる。

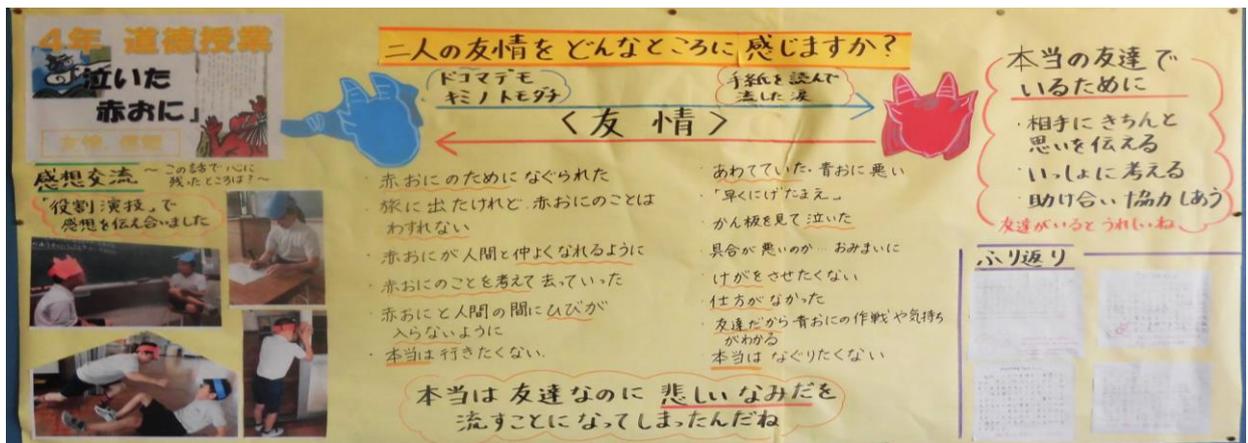


【資料 21 研究授業後の協議会の様子】



【資料 22 研究主任による模擬授業の様子】

また、作成した教具（紙芝居や役割演技のお面、シルエット絵など）は資料室に保管し、共有できるように「お宝」として保管している。また「第〇回道徳授業」の表示や「学びのあと」の掲示物も、「子供とともに作る道徳授業」を盛り上げてくれるものとなっている。



【資料 23 教材教具や掲示物】

## 5 研究の評価

### (1) 研究の成果

#### ① 仮説1について

導入に視覚支援を取り入れた発問を取り入れたり、終末に映像で活動の様子を伝えたりする活動を取り入れることで、子供たちを教材にひきつけることができた。授業の中で、子供たちは自分の生活体験を思い起こすなど、自分事として考えることができた。

授業展開については、教材提示後に感想交流を取り入れることで、子供たちの問題意識やこだわりをつかみ、中心発問へとつなげることができた。子供たちは1時間を通して、自分の考えをしっかりとって話し合うことができ、さらに友達の見解を聞いて、考えを深めることができた。

話し合い活動では、自分の考えをノートに書いて話し合うことに加え、ペアトークやグループトークを取り入れて、全体の話し合いにつなげる場面を多く設定した。特に中・高学年で取り組んだトリオ学習は、少人数での話し合いのよさに加え、堅苦しくないフリートークにすることで、自分の意見を伝える場となり、全体での話し合いを活発にすることができた。

## ② 仮説2について

道徳の全体計画の別葉を作成することで、各教科との関連を大切にしたい授業が展開でき、子供たちは、道徳の授業で学んだことや考えたことを、他教科での授業や活動に生かすことができるようになった。また、教科書「みんなの道徳」の教材を中心に取入れた羽根井小道徳年間指導計画や指導計画の細案を作成したことで、道徳の授業を円滑に行うことができた。

他校の教員への授業公開を行ったり、同じ教材の授業を、各学年の協力体制で複数回行ったりすることで、教員一人一人の授業力向上につながった。また、参観者の意見を集約したり協議会を行ったりすることで、授業テクニックや新たな発問の工夫などを知るよい機会となった。

学校・学級だよりを通して、子供たちの道徳授業の取り組みを伝えたり、保護者とともに考える道徳授業を取り入れたりすることで、各家庭で道徳授業についての話題があがるようになった。11月上旬に、子供の自己評価が記入された道徳ノートを持ち帰り、保護者に子供たちの道徳授業の取り組みを伝えたことで、保護者も道徳授業の大切さに気づくとともに、子供たちの成長を感じられる機会となった。

大学から講師を招聘し講演等を聞くことにより、道徳教育に関する最新の情報を得ることができ、子供の心に響く道徳教育のあり方や評価についての考えを深めることができた。

子供の自己評価や道徳ノートに書かれた内容を分析することで、授業における子供たちの価値の自覚や意欲を知ることができ、その後の道徳授業に生かすことができた。

## (2) 今後の課題と取組

- ・授業を通して、子供たちが道徳的価値に向き合い、より自分事として考えるための、効果的な教師の切り返しやゆさぶりを取り入れる。
- ・話し合いがより深まるように、グループ活動（トリオ学習）をさらに効果的に取り入れたり、心情軸や心情グラフを活用したりして、自分の考えを明確にして話し合ったりする場を設定する。
- ・児童のふり返りや保護者の言葉から、一人一人の変容や成長を把握し、さらなる道徳授業の充実を図る。

子供とともにつくる道徳授業の質をさらに高めていくために、道徳の授業で学んだことが今後の子供たちの生活の中で生かされるように、教材の精選をしたり、授業を通して、子供たちの成長や変容を確かめたりしながら、これからも道徳授業を進めていきたい。